

東北海区沿岸水温予報(2012年)

海域	経過 (11~1月)	現況(1月下旬~2月上旬)	見通し (3~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	12月の津軽暖流の各層最高水温は0m層でやや高め、50m層、100m層では平年並み、水塊深度は平年並み、張り出し位置はやや東偏。 沿岸定地水温は11月は平年並み、12月、1月はやや低め。	沿岸定地水温はやや低めに推移している。	沿岸水温はやや低めに推移するものと考えられる。	親潮が本県沖に幅広く分布。沿岸定地水温はやや低めに推移している。2月の日本海観測結果は0m最高水温はやや低め、50m層、100m層最高水温はかなり低め、流幅は平年並み、水塊深度はやや深め、北上流量はかなり多め。	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	11月 表面：距岸10海里内は平年並み。県北部30~50海里から県中北部20~40海里でやや低め、県中南部50海里から県南部40~50海里でやや高め、ほかは平年並み。 100m深：距岸10海里内は県中部でやや高め、ほかは平年並み。県北部10~50海里から、県中南部30海里でやや低め、極めて低め、県中南部50海里から県南部30海里でやや高め、ほかは平年並み。 12月 表面：距岸10海里内は県北部から県中北部でやや低め、ほかは平年並み。 県北部30海里、県中北部10および30~40海里、県中南部30~40海里、県南部~50海里でやや低め、ほかは平年並み。 100m深：距岸10海里内は平年並み。県北部30および50海里、県中北部30海里、県中南部30~40海里、県南部50海里でやや低め、極めて低め、県中北部50海里、県南部30海里でやや高め、ほかは平年並み。	1月 表面：全域でやや低め、極めて低め。 100m深：距岸10海里内はやや低め、極めて低め、県北部10および50海里、県中北部10~50海里、県中南部10および50海里、県南部10および40海里でやや低め、極めて低め、ほかは平年並み。 2月 表面：距岸10海里内はやや低め、極めて低め、県北部および県中北部10~50海里、県中南部10~30海里、県南部10海里でやや低め、極めて低め、県中南部40~50海里、県南部30海里でやや高め、100m深：距岸10海里内はやや低め、県北部10~50海里、県中北部20~40海里、県中南部10海里でやや低め、県中南部40~50海里、県南部30~50海里でやや高め、ほかは平年並み。	3月 100m深：沿岸部および県北沖合でやや低め~低めのほかは平年並みと予測。	統計的予測モデルによる。	秋さけ不漁 1月23日、表面で5以下冷水が、御箱崎~綾里崎に接岸。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	12月上旬 表面水温は平年並み、100m深は県中北部の142°~142°50'で高め、県南部の142°30'以東で低め。 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は、13~15台で、平年並みであった。 【100m深水温】 100m深水温については、10~14台で、気仙沼沖(38°50'N)及び雄勝沖合(38°30'N)の142°~142°50'Eで平年よりも1度高め、亘理沖合(38°N)の142°30'~143°10'Eでは平年より1~2低めであった。 1月中旬 本県沿岸・沖合海域は表面水温、100m水温とも低め。 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は、6~9台で、仙台湾では平年並み~1低め、仙台湾沖から三陸沖では平年よりも1~4低め、特に39°N~38°Nにかけての142°10'Eの観測点で低くなっていた。 【100m深水温】 100m深水温については、6~10台で、平年よりも1~3低め、表面水温同様、39°N~38°Nにかけての142°10'Eの観測点で低くなっていた。	2月上旬 宮城県全沿岸域で水温が低く、気仙沼沖合では親潮系冷水が波及している。 【表面水温】 本県沿岸域の表面水温は、4~7台で、平年よりも1~3低め。 【100m深水温】 100m深水温については、4~8台で、平年よりも1~3低め。特に表面及び沖合とも気仙沼沖ライン(39°N)の142°30'E付近で、親潮系冷水の影響により水温が低めであった。	3月は142°30'以西の沿岸域では平年並みで推移する。142°30'以東では、低めから極めて低めで推移する。 4月は142°以西の沿岸域では低めで推移する。142°~142°30'Eの雄勝沖合海域(38°30'ライン)から亘理沖合海域(38°ライン)にかけては平年並みで推移する。142°30'以東では、極めて低めで推移する。	「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」によって海況予測を実施した。 (類似年は、1998年2月であった。)	特になし

常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)	11月・12月:黒潮系暖水の弱い波及がみられた。富岡及び塩屋埼の50海里以内に冷水域が分布したが、親潮系冷水の沿岸域への目立った波及はみられなかった。50海里以内における100m深水温は「平年よりやや低め」であった。 1月:常磐南部海域から暖水波及がみられた。親潮系冷水の勢力は弱い沿岸域での降温傾向が継続している。 50海里以内における100m深水温は「平年よりやや低め」であった。	親潮系冷水はやや勢力を強め、鷲ノ尾埼及び富岡沖の50海里以内に波及している。黒潮系暖水は本県南部海域の50海里より沖合から波及しており、この海域では潮境が形成されている。 50海里以内における100m深水温は「平年並み」となっている。	沿岸水温は「平年並み」から「平年よりやや低め」で推移する。	親潮の面積は平年より大きく沿岸域での南下傾向がみられる(気象庁)。黒潮流路は潮岬以東で蛇行しており、本県海域への暖水波及がみられるが勢力は弱い。このため、本県沿岸海域は、当面親潮系冷水の影響を受けやすい海況となることが予想される。	特になし。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	11月:平年と比べると会瀬~鹿島沖の表層は概ね「平年並み」、下層は「低め」となった。犬吠埼沖は黒潮流路があり、概ね「平年並み~高め」となった。月を通して海況の変化は小さく推移した。 12月:上旬は平年と比べると会瀬~鹿島沖の表層は「低め」、下層は「平年並み」となった。犬吠埼沖はごく沿岸域で「低め」だが、沖合域には黒潮流路があり、平年比べて「高め」となった。下旬は暖水舌が形成され、沿岸域に暖水が波及した。 1月:上旬は平年と比べると北部海域の表層で「平年並み~低め」、南部海域は犬吠埼の沿岸域で「低め」、その他は概ね「平年並み~高め」となった。下旬は暖水舌が形成され、沿岸域に暖水が波及した。	2月上旬:平年と比べると北部沿岸域は表層で「平年並み~高め」、下層で「平年並み~低め」となった。南部沿岸域は下層のごく一部で「低め」、その他は概ね「平年並み~高め」となった。 なお、2月中旬には黒潮の流路変動に伴った強い暖水が沿岸域に波及して、著しく高めの水温となっている模様である。	3月中旬までは「平年並み~高め」で推移する。以降は、一時的に冷水が波及して「低め」もみられるようになる。	2月中旬に黒潮の流路変動に伴った強い暖水波及がみられた。同様な状況で暖水波及が見られた2003年や2008年の例では、暖水波及から1ヶ月~2ヶ月程度、暖水波及の影響が持続した。 1月末以降、三陸から常磐北部海域を親潮系冷水が南下しており、塩屋埼沖付近で著しい潮目を形成している。また、2月上旬現在、親潮第1分枝の南端位置は平年よりやや南に位置している。さらに、気象庁によれば、2月下旬の親潮の面積は平年より大きく、親潮第1分枝の南限緯度は北緯38度30分にあり、今後さらに南下すると予測している。以上のことから、親潮系冷水の南下は今後強まり、本県海域の暖水の影響が弱まれば、親潮系冷水が波及することが想定される。	会瀬沖に設置した流速計で2月18日、19日に急潮(1ノット以上)を観測した。特に19日の3時には6.7cm/secで、観測期間中では最大の流速であった(これまでの最大は3.4cm/sec)。これは黒潮の流路変動に伴った強い暖水波及が原因と推測される。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高いⅠ(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高いⅠ (7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高いⅠ (20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み (40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低いⅠ (20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低いⅠ (7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低いⅠ(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~